

# 言語活動の充実に関する実践事例

学校名（廿日市市立野坂中学校）

- ① 教科等 国語科    ② 学年 第2学年
- ③ 単元名 「形」菊池寛
- ④ 本時の目標 主人公以外の人物の視点から物語を書きなおす活動を通して、登場人物の心情が効果的に伝わるよう、描写を工夫して書く。（書くこと ウ）
- ⑤ 学習の流れ（4時間目／全5時間）

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 （評価方法）
1 あらすじを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習を振り返り、登場人物が「力」の象徴であった「形」（特徴のある服折とかぶと）をどうとらえていたか確認する。</li> </ul>	・登場人物の心情や「形」に対する考えが、効果的に伝わるよう、情景描写・心情表現・セリフを工夫しながら書いている。 〔書く能力〕 （作品・評価シート）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公 若い侍に喜んで「形」を貸す →自分の実力に「形」は無関係であると思っている。</li> <li>・若い侍 手柄を立てたくて「形」を借りる →「形」が敵にとって脅威であることを知っている。</li> <li>・敵兵 主人公の「形」を身に付けた若い侍にひるむ                「形」を身に付けていない主人公にびくともしない→「形」から「力」を判断している。</li> </ul>		
2 本時の目標を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結末を確認させる。                「力を恐れられていた主人公は名もない敵兵に殺された。」</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">               その後の物語を「回想録」として書こう。             </div>	
3 最後の場面を、主人公以外の人物の「回想」として書きなおす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公が敵に対峙する最後の場面を書きなおすことを指示する。</li> <li>・「敵兵」「若い侍」「主人公の妻」「主君」等、語り手を想定させる。</li> <li>・作品の表現を取り入れることを意識させる。</li> <li>・語り手の心情が伝わるよう工夫することを意識させる。</li> <li>・「形」と「中身」についての自分の考えが読み手に伝わるよう書くことを意識させる。</li> </ul>	
4 作品を評価する。 ○ 自己評価 ○ 相互評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価項目に従って評価させる。</li> <li>・グループで作品を読み合い、お互いの作品を評価させる。</li> <li>・次時に代表作品を発表することを伝える。</li> </ul>	

〔言語活動の充実〕

設定した言語活動を通して育てたい力

- すぐれた文学作品からその描き方を学び、心情や考えが相手に効果的に伝わるよう、描写を工夫して書くことができる。

言語活動充実のための指導の工夫

- 読み手から書き手に替わることで興味関心を高める。
- 何を伝えたいか明確にする。（形と力についての自分の考えをまとめる。）
- どういう立場で書くのか明確にする。（立場によって書き方を工夫する。）
- もとの作品を参考にする。（優れた比喩表現・文末表現・効果的な文の長さ等を生かす。）